

No. 11

2015年 5月 5日

PAF 絵画教室

0942-32-7970



PAF 通信

<http://www.psychicart823.com/>

発行者

木塚忠広

〒830-0023

久留米市中央町13-6

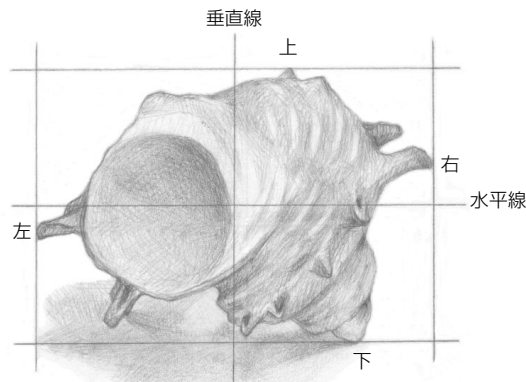
絵画の始めに（デッサンについて）

いま、何かが見えてますよね。それは、単純に考えると、全てのものは色と形と云えるのではないでしょう。か。（ちょっと強引すぎますかね？）その他のこととしては、それぞれのものには名前が付いていたり意味があったりする訳ですが、それはちょっと置いて、分かり易くするために形の話から始めましょう。

まず、描こうとするものに見合った大きさの画用紙を選びます。次に画用紙の中心に水平垂直の薄い線（描くための便宜上の線で後で必要でなくなる）を描きます。それから画板を自分の視線と直角になるように置きます。それは、画用紙を机の上に置いて斜めに見ながら描くと、描いた絵が縦に長くなるのを避ける為です。

目の前のモデルの上下左右の端が、先ほど描いた水平垂直の線のどの位置にあるのかを見極めます。デッサンのためのプラスチックのスケールが有りますが、透明のプラスチックが有れば自分でも作れます。そのような道具を使えばデッサンはやり易くなります。上下左右の辺りを付けたら、自分が描き易くて分かり易いところから描いて行けば良いのです。

形を見ることと、明暗の調子を付けることは、形を取った後に調子を入れるのではなくて、出来るだけ同時進行で描いた方が立体感が出しやすく上手くなります。でも、そうは云っても、形を見ることの方がちょっとだけ先行します。それは、形を見ることと明暗を付けることは、モデル全体を見て比較しながらやらないと正確に描けない為です。理想的な描き方の手順は、カメラのピントが最初はボンヤリしていたものが段々ハッキリとしてくるといった具合で作業が進められればベストです。



次に色（調子、トーン）についてお話ししましょう。石膏像のように真っ白のものは、明暗の見方が分かり易いので描きやすいのですが、色が付いているものをどのように見るのかということがあります。つまり、黄、橙、赤、は段々明度が落ちてきて薄いグレーから濃いグレーになるといった明度差を見極めないといけないのです。全体が、同じように赤いリンゴも光を受けて明るい上の方と光を余り受けない下の方では、同じ赤でも全然違ってきます。それから、光を受けて付いたハイライト、リンゴが乗っている皿の反射光、リンゴの影、リンゴが付けた影と見極めるものはたくさんあるのです。

人は、成長するにしたがって様々な知識を身に付けていきます。5、6歳の頃に手に入れた木の幹は茶色、葉っぱは緑、空は青、といった概念はこどもの成長の証でもあるのですが、別の見方をすれば停滞でもあるのです。絵に興味のない子は、ここで一回目の停滞があり、勉強が忙しくなる9歳、10歳で二度目の停滞が来て、そのまま絵画の制作や鑑賞とは無縁な人になるのです。分かり易いお話をしましたが、このように知識や思い込みが絵を描くことの障害になることもあるのです。自分の目が、このような知識や思い込みを取っ払った”0”の目になってれば、デッサンは上手くなります。デッサンは、たくさん描けば誰でも上手くなりますが、絵画は描写力が全てでは無いのです。絵画は、もっと豊かで自由なんです。だから、デッサンが出来なければ絵が描けないと云うことではないのです。絵の具を塗ったり、線を描いたりする作業が楽しければ、それが一番なのです。つまり、自分の達成感や満足感が全てなんです。